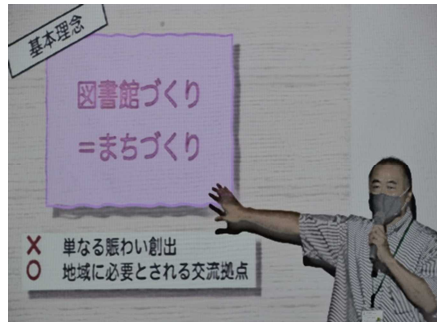


## 第2回

# 図書館そだて会議

内容：(すべての会場で共通です)

- ・ 1回目に全ての会場で出た意見や、アイデアの紹介。
- ・ 基本計画策定委員会での協議内容の報告。
- ・ 図書館長、図書館スタッフと一緒にこれから図書館でやりたいこと、やってみたいことを話しましょう。



会場	日時
蒜山図書館	12月2日(水) 午後7時から
美甘図書館	12月9日(水) 午後2時から
久世図書館	12月10日(木) 午後7時から
落合図書館	12月18日(金) 午後4時から
北房図書館	12月20日(日) 午前10時
湯原図書館	1月14日(木) 午後3時から
中央図書館	1月16日(土) 午後2時から

## 第 2 回図書館そだて会議@蒜山図書館 報告

○日時 2020 年 12 月 2 日午後 7 時～9 時

○参加者 市民 14 人、職員 6 人

### 第 1 回図書館そだて会議の内容を受けてディスカッション

#### 【蒜山図書館より参加者へ】

① 図書館がやってみたいこと、やれること、検討できること 【すぐにできること】

・楽しい雰囲気づくり

館内のデコレーション、本の POP、おすすめ本の展示を充実させる

・地域の特色に特化したコーナー作り

自然（茅）、大宮踊、民話等の文芸、シリゲや蒜山関係の絵画、アウトドア、観光情報提供

・テラスやロビーでの読書

貸出手続してもらえれば可能

→セキュリティの問題があり出入口を増やすことはできない。目が届かないところでのケガ発生なども困る

➤ 借りる前にゆっくり館内に滞在してゆっくり本を選びたい。ソファでゆっくりするなど。

➤ アットホームな空間と静かに本を読む空間の棲み分けが必要

・ぶつくるんまにわ 1 月から学童（旧八束村役場）へ新たに巡回開始

➤ 子どもが自分で選ぶことを大切にしている。巡回の時間や曜日を調整できると助かる

②地域の皆さんからアイデアや協力を得たいこと

・リクエスト BOX を設置してみたい

BOX に意見や希望を無記名でいれてもらう

・蒜山の魅力、おすすめポイント →SNS でも発信したい

・図書館でこんなことをしてほしい

・図書館でこんなことがしたい

・こんな本が読みたい など

『生協の白石さん』のようなやりとりができればと思う

➤ 必ず回答や反応があるといい

➤ 次に来館する時の楽しみになるかもしれない

③他館を参考に、今後図書館と地域の皆さんと協働で一緒にやりたいこと

- ・中高生がチャレンジできる場づくり：10代のなかなか来館しなくなるので、何かしたい
    - 高校生によるシニア向け講座 例：スマホ、PAYペイの使い方
    - 高校生からのアイデア・意見
      - ・学校から振興局へ来る近道になるので橋がほしい
      - ・外のベンチを増やしてほしい（バスを待つため）
      - ・売店がほしい
      - ・図書館の入口が狭い
    - ネットの情報だけでは不十分。図書の情報と組み合わせて使いこなしてほしい
    - 高校に学校図書館がない。公共図書館を使ってほしい。雑誌は興味を引くと思う
      - 外から見えるところに雑誌の表紙を掲示してアピールしてはどうか
    - 小学生からのアイデア～蒜山図書館をもっとすてきなところにするには？
      - ・レイアウトや雰囲気
        - ・季節に合う飾りつけ
        - ・折り紙で飾り付けをする
        - ・図書館で楽しく本を読みたい
        - ・入口に季節の本や人気の本をおいてほしい
        - ・目につくところにおすすめの本があるといい
        - ・読み聞かせが自由にできるコーナーがほしい
        - ・自分で絵本をつくるコーナーがほしい
      - ・図書の希望
        - ・雑誌やファンブック（Twice, Niziu など人気のアイドルのもの）
        - ・マンガ、いい匂いのする本
      - ・施設面
        - ・インスタ映えするものをつくる
        - ・ロマンチックな建物にする
        - ・図書館の外に遊び場（すべり台など）がほしい
        - ・パソコンでプログラミング学習をしたい
      - ・イベント
        - ・ポイントをためるとしおりがもらえると、たくさん人が来ると思う
- ・イベントが少ないことについて
  - 図書館開催イベントの企画内容検討を一緒にしていただきたい
  - 開催時の運営スタッフとして手を貸していただきたい → 中央館のサポーターズのような存在必要
  - 持ち込み企画歓迎（こんなことを教えられる、教えてみたいなど）

- 他の会場で出ていた、お父さん・男性も興味を持つテーマ 例：ナイフの研ぎ方、たき火、狩猟
- 図書館からのリクエスト（手伝ってほしいことなど）も出すとよい
- 『ひるぜんの味 食べ物歳時記編』を見て料理をつくる様子を映像で残していく
  - ← 勝山高校蒜山校地に家庭系コースがあり、調理室もある。映像は MIT に依頼
- 図書館単独で難しければ、他施設開催のイベントに図書館として連携していくのもよい
  - ← 関連本の展示など行ってはどうか
  - 早めにイベント情報が分かると図書館で準備がしやすい
- 図書館のイベントなので本と組み合わせることが大切
- 蒜山の開拓者の方の話が聞きたい

・展示コーナーへの作品の持ち込み歓迎

#### 【参加者から図書館へ】

- 地域の資料がデジタル化されて家でも見るようになるといい
- 図書館に電子書籍が入ると高齢になって来館しにくくなっても本を読めるかなと思う
- 各館の特色ということなら、「マンガだけある図書館」などもよいのではないか

#### 【まとめ】

- ✓ リクエスト BOX の設置
  - コミュニケーションボードづくり、BOX に入れてもらった意見やアイデアに図書館から必ず応答し、図書館から地域への協力依頼もここで行うなど、交流の場にする
- ✓ 勝山高校蒜山校地の高校生とのコラボレーション企画
  - シニア対象の講座、小学生対象のプログラミング講座、郷土料理レシピの調理企画
- ✓ 高校生へのアピール・・・ 図書館に所蔵する雑誌の品揃えを再検討
- ✓ 小学生からのアイデアにもぜひ対応を
- ✓ 年に 1 回程度、集まって話をする「図書館そだて会議」を開催する

## 第 2 回図書館そだて会議@美甘図書館 報告

○日時 2020 年 12 月 10 日午後 2 時～4 時

○参加者 市民 3 人、職員 6 人

第 1 回図書館そだて会議の内容を受けてディスカッション

美甘館長より

「計画をつくることも大事にしつつ、美甘図書館をこんなふうにしていきたい、という意見をいろいろ出していきましょう」

- 今回の会場について
  - ・図書館の外スペース、wifi も使える
  - ・図書館の隣に「幼児休養室」もあり、くつろげる →夏休みなど、子どもと一緒に使えそう
- 学校図書館のこと
  - ・今は全校に配置に配置になったようだが、以前、美甘小の図書整理に行っていたことがある
  - ・古い本が多かった・・・小さな学校でも充実させてあげたい、子どもは新しい本であればたくさん読むかもしれない
  - ・美甘図書館から月 50 冊配本し、読み聞かせもしている
  - ・美甘中に子どもが通っていたときには、希望した本がすぐに読めた
- 自動車文庫「ぶっくるん」のこと
  - 図書館からおおむね 2 キロ離れているところに巡回することになっているようだがー 根拠は？
  - ・図書館から離れていなくても来てほしい。人が集まるところに行くべき
  - ・1 月からセブンイレブンの移動販売車が駐車する場所へ巡回することになった
    - ← そこまで行くのが大変な人もいるが・・・
  - ・「ふるさとまつり」を「文化祭」と同時開催し、ぶっくるんに美甘に関する本を載せて来てもらう
    - ← 一緒に開催することで市内外から人が来る、まちなみの活性化にもなる
- 中央図書館と美甘図書館
  - ・中央図書館
    - 広すぎる 小さい子はたくさん本がありすぎて選べない
    - バス不便
    - 子どもが大きくなると自力で行っているようだ
    - 中学生、高校生が下校する 16 時～16 時 30 分の間、旧勝山図書館で本を借りられるとよい ←建物を取り壊す予定あり ←ぶっくるんに来てもらえるといい
  - ・美甘図書館
    - コンパクト

静かに落ち着いて利用できる

中央図書館と美甘図書館を棲み分け、使い分けしたらよい

- 図書館に足を運んでもらえる工夫
    - ・振興局の「文化祭」のときに図書館へ誘導するとか ←ぶつくる人も来たらよい
    - ・図書館が2階にあるので目に触れにくい
    - ・1階診療所など待ち時間のあるところへ本を何冊か持っていく
    - ・図書館職員が2階を開けながら1階にも目配りするのは大変・・・
      - ← 何か行事や催しがあるときだけ2階を閉めて1階でオープンするとか
    - ・お茶を飲みながら音読や川柳を詠む企画を冬場にやっている。3年くらい
  - 何をするにもお金がいる・・・何にお金がかかるのか
    - ・人を雇う
    - ・施設の使い勝手をよくする
    - ・蔵書を充実させる
- ← お金のことは度外視してアイデアをだしていきたい
- ・今ある蔵書をもっと活用。7館すべての蔵書がある
  - ・今までいちども借りられていない本もあるー中央館で展示企画をしたことあり
  - ・インターネットを使えない人は市内にどんな本があるか分からないので工夫が必要

【まとめ】

- ✓ 振興局を自由に使えるとしたら・・・**図書館機能を1階に集約する！**  
**建物が建ったときと人口規模や高齢化率などの状況が変わり、当初の目的通りに使えていない部屋がある = どの部屋が使いそうか考えていく**
  - ・リハビリ室に高齢者向けの本を置く
  - ・商工会と横の会議室を使う
  - ・テレビを置いているコーナーを臨時図書館にしてはどうか。ブックトラックなど可動式の書棚で囲って小部屋のようにする
    - ← 月2回のサロン開催などに合わせる
- ✓ **障がいのある子どもも大人も使いやすい図書館にしていきたい**

## 第 2 回図書館そだて会議@久世図書館 報告

○日時 2020 年 12 月 11 日午後 7 時～9 時

○参加者 市民 8 人、職員 8 人

### 第 1 回図書館そだて会議の内容を受けてディスカッション

- 1 回目に出たアイデアに対して図書館から
  - ・久世館の排架がずっと変わっていないことについて  
天井が斜めになっていて、単純に書棚を入れ替えられない。別置することでコーナーをつくるなど工夫したい
  - ・スーパーで本を返せるようにすることについて  
調整できればしたい
  - ・館内で BGM を流すことについて  
館内で音楽を流す場所、流さない場所、という設定ができる音響設備ではないので、ラジカセなどで工夫すればできそう。エスパホールと併設という特性を活かして館内で演奏会もしてみたい
  - ・MIT (ケーブルテレビ) が撮影してきた映像などのアーカイブを活用したい
- 図書館に足を運んでもらう工夫
  - ・まず行ってみないとよい意見は出ないだろう
  - ・高齢者は時間がある = 図書館に来て自分でおもしろいものを見つけられるとよい
  - ・図書館に来る「足」が不足している。図書館に来る公共交通機関が必要
  - ・図書館に来る、来やすくなるきっかけをつくるのが大事。学校から図書館見学に来て本を借りとか、コロナで遠くへ行けない代わりに市内を巡る遠足で図書館を経由するとか。
  - ・山口県の図書館おしゃれだった。なぜか？ = 暗さ。本を読むのにカウンターでブックライトを借りる。明るすぎるのも落ち着かないのだなと思った
  - ・小さい頃から図書館に来たり、本に親しんでいるといい
  - ・今の久世図書館が自分にとってはパーフェクト。そんなに頑張らなくていいと思う。人生のなかで本を読みたくなる時はあるはず。その時に受け入れてもらえれば十分
  - ・図書館だけでなく、行政でも成果ばかり求めるのはどうかと思う。図書館ににぎわいをと言うが、人生はにぎわいばかりではないはず
  - ・身近に図書館があって、読みたい本が読めるので幸せ
- 図書館 (図書館職員) がなんでもやるのは大変
  - ・図書館職員が少ないところは「できないことはできない」と言ったらよい。職員からはなかなか言えないと思うが・・・
  - ・もっと地域の人を力借りたらよい。人が活躍する場を提供するといい

←中央館のサポーターズのような組織が久世にもあるといいと思っている。どうやって巻き込んでいったらいいか（久世館）

- ・毎日ニッチなイベントをいろいろやってはどうか（例：東京カルチャーカルチャー）
  - ・自分が偏愛しているモノ・コトを語ってもらうイベント（例：ダム、鉄道）
  - ・一人の偏愛もほかの人と話すことでいろいろな側面が見えたり、切り口が出てきたりする
  - ・図書館の一角で、本を絡めながらやるといい
  - ・コアなはなしをする場が求められているのかもしれない
  - ・あるテーマに詳しい人の情報を図書館でストックしておくといい
  - ・言い出した人が責任を持ってやる←もちろん図書館でサポート
- 活字を読む人が減っている
    - ・まず入口としてマンガからでも。いいマンガがたくさんある
- ← 子どもも、マンガすら読まない子が増えている、スマホ見てる・・・
- 図書館の本を紹介する方法
    - ・Twitter やブックログなどで図書館にどんな本があるかをアピールしてほしい
    - ・学校図書館で「どうぞのいす」という取り組みをしている
  - 学校図書館と公共図書館
    - ・学校図書館で人気がある本が久世図書館にない。複本制限されている？
- ← 人気のある本が全館にあるほうがいいのか、複本よりも多様な本があるほうがいいのか、図書館で検討して複本を減らすことにしてきた経緯がある（久世館）
- ← 子どもの本は複本を増やしてもいいのではと提案してかえていこうと思っている（中央館）
- ・学校司書が兼務だと、学校ごとに開館時間が違うなど格差ができてしまう
  - ・真庭の子がみんな公共図書館へ来るのは無理（遠い所に住んでいる等々で）なので、学校図書館がかわりになればいい＝連携していくとよい
  - ・学校でやっていることは外からなかなか見えない。図書館が成果発表の場になるといい
- 図書館は何をすところか
    - ・本を読むところだけけど、「知の集合体」なので活字にこだわらなくてもいい
    - ・tiktok などの動画コンテンツなどたくさんの娯楽があるが、それをちゃんと楽しもうと思ったら本で調べたりするようになると思う。
    - ・図書館では「知の高み」につれていってほしい。朗読や浪曲、講談、歌舞伎など、見たり聞いたりするだけでなく、自分たちでやってみるとか
    - ・現行の図書館基本構想で「〇〇に役立つ図書館」というのが 5 つあったが、役に立たないといけないのだろうか？ ゆるいところ、無駄なことも大事、受け入れてもらえる図書館がいい
    - ・やさしい図書館がいい。やさしいというのは、「寄り添ってくれる」「やりたい気持ちを受け入れてくれる」という意味



・「図書館そだて会議」は参加者が来たくて来ている、図書館の人もやりたいからやっているという感じがしていいと思う→ 資料を前回来て、今回来ていない人にも渡してほしい

● 真庭の図書館

・美甘の図書館にいったら図書館の隣の部屋が学習室になっていた。間の壁がないといいなと思った。予算が必要だと思うが。

・予算配分はどうなっているのか。毎年度、重点的に取り組むところには手厚く配分するとい

【まとめ】

✓ やりたい気持ちを実現できる図書館にしたい！

## 第 2 回図書館そだて会議@落合図書館 報告

○日時 2020 年 12 月 18 日午後 4 時～6 時

○参加者 市民 8 人、職員 6 人

### 第 1 回図書館そだて会議の内容を受けてディスカッション

#### ● 1 回目に出たアイデアに対して図書館から

##### ・真庭高校看護科の生徒さんからの意見を受けて

高校の学校司書、先生から看護系の本のリストをいただき、図書館で発注予定

高校の図書館と落合図書館で毎年刊行される資料を交互に購入するなど、協力していきましようということになった

(参加者)「病気が見える」シリーズは一般の方にも分かり易いので図書館でも所蔵するとよい

(参) 医療や健康に関する情報は新しいものが欲しい。古い本は棚から抜いて欲しい

#### ● 情報発信について

(参) InstagramやLINE、twitterで情報収集しているので、本の紹介などもするとい

(図) 中央図書館で「Instagram講座」を開催した。講師は中央図書館長なので地区図書館でも開催可能

(参) iPadの使い方講座などもあるとい

(参) 内容が面白ければ(受け手に興味のあるもの、地域のこと)、市民に広がっていくと思う

(参) 冊子を作っているが、手に取ってもらうには表紙のインパクトが大事だと思っている。イベントも同じかなと思う

#### ● 学校図書館について

(参) 1回目にも話が出ていたが学校図書館との連携は大事だと思う

(参) 学校図書館の本が古い。何十年も前の本がまだ置いてあった

(参) 子どもが市立図書館に来るのは土・日曜日くらい。平日は学校図書館を使うだろう

(参) 朝読や小さい頃からの読書習慣が大切だと思う

(参) 市立図書館から本を貸せばいい

(図) 依頼を受けて団体貸出をしている。定期的に行なっているところと、授業の内容によって依頼を受けることもある

(参) こういうサービスがあることがもっと知られるといい。周知すべき

(参) 中央図書館にはたくさん本がある。来館者が少ないのなら団体貸出に活用してはどうか

(参) 税金で買っている本なのだから読み尽くしてもらえるように

● 図書館サービス、イベントについて

(図) 人口一人当たり年間6冊くらいの貸出がある。6歳から12歳くらいの子どもと60歳以上の利用が多い、真庭市の人口構成と同じ。10代の利用はとても少ない。中央図書館では高校生は学習室には来ている

(参) 学習室に来るだけでもいいと思う

(参) 落合図書館の学習室は大人はちょっと入りにくい。閲覧室の中に本を読めるスペースが欲しい。レイアウトを工夫できないか

(参) 久世図書館で保存年限切れの雑誌をもらえた。落合図書館ではない？

(図) 毎月1回同じように行なっている。人気があるので、冊数制限をしてもすぐなくなる。

(参) 全然気づいていなかった。目立たせて欲しい

(参) このことに限らず、自分が興味のある棚しか目に入っていないことが多い

(参) 今年中央図書館でされた「読み聞かせ講座」は良かった。またやって欲しい

(図) 落合図書館では第一土曜日11時から就学前後の子ども対象に読み聞かせの会をしているが参加者が少ない

(参) 真庭の人は共働きの人が多いので、土曜日もこども園に行っているかも。日曜日は家でんびりしているかも

(参) 年齢を絞って、その年齢に合わせて曜日と時間をかえるといいのでは

(参) 乳幼児健診や親子連れの集まりでアンケートをとってみてはどうでしょう

(参) 脱スマホをされていて、本を読むようになった。スマホで何をしていたかという、誰かに情報を届けたいなと思ってあれこれしていた。本を読み始めたら、読んだ本のことを誰かに知らせたり、話したりしたいなと思うようになった

(図) 湯原図書館でのそだて会議で、地域の人の「わたしの1冊」を図書館で展示したらどうかというアイデアが出ていた

(参) 「読書会」がありますよ

(参) 人の本の紹介を聞いているだけで幸せ

(参) オススメの1冊を紹介する「場」があるといい。意図的にそういう場を作るといい

(参) 「幸せ」という話があったが、日本の子どもの幸福度の低さが気になっている

(参) 落合図書館でやっている「スイートブックス」という行事でも本の紹介をしていた

(参) 図書館の新刊案内に司書のオススメコメントがあるといい。POPも

(参) ご意見箱みたいなものがあるといいのでは？

(図) 市民からの要望を聞く一方になるのではなくて、一緒にやっていきたいと思っている。1回目の

そだて会議で市民は図書館の「ユーザー」ではなくて「オーナー」だという話があったと思う。

(参) 協働で何かできたらいい

(図) 久世図書館で市民提案型のイベントの話があった。図書館はやりたい人に「場」を提供したい

(参) 自分の好きなことを熱く語る姿を子どもにも見せたい

(参) イベントが中央図書館に偏りがちという意見があったと思う

(図) 地区図書館が単独でするのが難しければ中央図書館と一緒にやることもできる

(参) イベントをする時にはターゲットを絞ることが大事だと思う。本好きの人は多分ほっといても来る。本好きじゃない人はどう届けるかを考えてはどうか

(参) 人が本を紹介するのを聞くのもおもしろいが、同じ本でも読む人や年齢によって感じ方が違っておもしろい

(参) 絵本を紹介する会をやってみたらどうでしょう

☆ 落合図書館では、今回の発案者が中心となって、3月と4月に大人向けに楽しい絵本、泣ける絵本を紹介する会をやってみることになった。

## 第 2 回図書館そだて会議@北房図書館 報告

○日時 2020 年 12 月 20 日午前 10 時～12 時

○参加者 市民 8 人、職員 6 人

### 第 1 回図書館そだて会議の内容を受けてディスカッション

#### ● 第 1 回そだて会議をうけて

(参) 1 回目のそだて会議で出たアイデアで実現したことはあるか？

(図) 実現予定のものとやってみようかという話になっているものがある

- ・コミュニケーションボードの設置 (蒜山)
- ・1階でサロンや検診がある時に2階にある図書館を1階で開館 (美甘)
- ・セブンイレブンの巡回販売者の駐車場所に自動車文庫も巡回 (美甘)
- ・落合図書館で高校と協力して看護系の図書充実
- ・専門的ではなくても自分の好きなことを発表する会をやる (久世) など

(図) 北房図書館でやってみたこと

- ・ロビーのテーブルに新刊案内を貼る

(図) やってみようと考えていること

- ・「図書館だより」の文字を大きく読み易くする
- ・地域の写真を飾るコーナー作り
- ・大活字本や朗読CDの所蔵を増やす
- ・他の図書館の本を巡回させる企画

受賞作などの複本を増やすのは難しいかなという話をした

(図) やってみたいので協力して欲しいこと

- ・館内の飾りづけ
- ・北房小学校と一緒にイベントを開催
- ・様々なテーマでの図書館講座 図書館で活動されている団体と連携するなど

(参) 小学校と一緒に行うイベントとしては、地域の伝承や民話を聞く機会を作るとか、あちこちにある歌碑の意味を説明してもらおうなどがいいると思う

#### ● 本を読むための技術について

(参) 今は、活字や情報を撮取するために安価でいろいろな技術がある (ウェアラブルネックスピーカーやデジタル化したテキストを拡大して読むなど)。見えにくくても、聞こえにくくても読書を楽しむことができるようになってきている。図書館でもそうした技術を紹介していくと良い

(参) そういう情報をよく知っている人に紹介してもらおうような講座をしてもいいのではないか

#### ● 図書館の役割について

- (参) 図書館は本を借りることができるのがいちばんの役割だと思っていたので、他にやりたいことなどと言われてもピンと来ていない。
- (図) 戦後、学生の勉強する場所で本を読む人は少数だったところから、貸出を頑張ろうという時代があって、その後は、図書館が本の貸出だけでなく、地域で課題となっていることを解決する支援をしたり、人々の居場所となるような役割を持った図書館が求められるようになってきている。真庭の図書館も本の貸し借りをする場所としてだけでなく、地域のことを地域の人たちが考える時にそのための情報を提供したり、何か始めたい、知りたいと言った時に図書館に行ってみようか、と思ってもらえるような場所になりたいと思っている。そのためにこの「図書館そだて会議」で市民の意見やアイデアをいただいているところ
- (参) 知識や興味を広げる場になって欲しい。知らない世界に踏み込めるような工夫が欲しい
- (参) 図書館を利用する人が少ないなと思っている。増やすには応援団がいると思う。一緒に行ってみようよと仲間を誘ってくれるような人がいるといい
- 学校図書館

(参) 以前、学校に勤めていた。学校図書館との連携をしっかりとって欲しい。自分が勤めていた頃は、予算が少なく、本も十分になくて授業に使えなかった。学校司書がいることも大切だと思う

(参) 自分が通っている高校の図書館も北房図書館も人が少ない。本好きしかこない感じ。自分はネットでは探さない。本棚にあるものを見て選びたい、予約などもしない
  - 図書館の蔵書について

(参) 図書館のいいところは、おもしろくないと思ったら返せばいいところ。買ってしまおうとそうはいかない

(参) Amazonの「ほしいものリスト」のような仕組みがあるといい

(図) 図書館サイトのMy本棚は図書館所蔵の資料しか登録できない…

(参) 北房図書館には小説や娯楽の資料が多すぎる。地域の歴史もほどほどでいい。幅広い教養が身につくようなものを所蔵すべき。新書で良い、入門になるもの。世界で問題になっていることを考えられるような蔵書を。自然科学系の本も充実させて欲しい。欧米に比べて遅れていると思うので

(参) 高尚なものばかりでも困る

(図) 蔵書の市民の意見を聞いて、バランスを考えて選書していきたいと思っている

以上

## 第 2 回図書館そだて会議@湯原図書館 報告

○日時 2021 年 1 月 14 日午後 3 時～5 時

○参加者 市民 3 人、職員 8 人

### 第 1 回図書館そだて会議の内容を受けてディスカッション

#### ● 図書館でやってみたこと

- ・図書館の使い方が初歩からわかるような図書館案内を作って広報と一緒に全戸配布
- ・館内の飾り付け
- ・ミニ展示コーナーの設置
- ・「特色コーナー」は従来の場所のまま、表示を分かり易く
- ・図書館前の交流スペース活用

#### ● 図書館で困っていること

- ・湯原地域の地域資料が少ない

(参加者から)

- ・昔、水害があって流されてしまったものが多い
- ・廃校になった二川小学校の校長室にあったもの図書館にもらえるよう交渉してみたらどうか
- ・地域の方に話を聞いてまとめてはどうか = 地域資料を作る
- ・地域の資料を持っている人もいると思う、寄贈を呼びかけるとか
- ・岡山オオサンショウウオの会の資料や昔出版された本がある。寄贈依頼するとか、古書も購入できるなら購入したら良い
- ・2026年で日本三大一揆の一つとも言われる「山中一揆」から300年になる。  
今から企画など準備して後世に伝えてほしい。資料を集める最後のチャンスでもある

#### ● フリーディスカッション

- ・図書館で本をつくりたい

- ・先ほど話が出ていた、地域の人話を聞いて本にするとか、おもしろそう
- ・地元の書店や印刷屋さんが盛り上がるという。電子書籍も作れたらいい

- ・電子書籍も今後図書館に入れたらどうか

- ・(ト) 感染症対策やシニア世代の読書を考えても今後検討したいと思っている。地域のことを本にして、紙だけでなく電子版も作ってもらえたら。図書館で収集・提供できる
- ・(湯原館長) 図書館が作ってしまうと販売できない、作り手にお金が回らないのは困る。手法を

整理したほうがいいと思う。

- ・(ト) 作家を育てて、作品ができれば図書館で買う、というのなら良いのでは
- ・「アーティストインレジデンス」の作家版、「湯原のトキワ荘」みたいなことができるといい
  - ・(湯原館長) はんざきの小説を1年かけてみんなで作る企画を検討しているところ
- ・図書館で資料をさがしてWikipediaに「二川町」の記事を書いた。アーカイブとして残るといいと思う  
「社地区」「温泉」「田羽根地区」「木地師」「独楽(コマ)」など色々ネタはある。  
そのことはこの人に聞いてみたらいいよ、と図書館につないでもらえるとありがたい
- ・地域の人に話を聞いて資料を少しずつ作って行ったりして、ゆっくり「湯原らしさ」を育てるのがいい
- ・地域のことを調べていても分からないことが多くて行き詰まってしまう
  - ・(ト) 久世図書館でそだて会議をした時に、自分の好きなこと・ハマっているものについて話す「ミニ講座」をやりたいという話が出ていた。
  - ・正しい歴史とは言えなくても、いろいろな人の考えを知るのもいいと思う。歴史学者じゃなくても。
  - ・以前、蒜山で湯原ダムを作った時の映像を観る会があった。工事に関わった人が遠くからも来られた。知っている人が写っていると、映像を見て思い出したこと話してくれる人がいてとてもよかった。
  - ・映像や写真のスライドショーなどもいいよね
  - ・湯原は観光地で人もたくさん集まっていたから写真もたくさん残っているのでは？呼びかけて集めてみるとか
  - ・岡山県立図書館で調べものをしていたら、湯原の旅館のパンフレットが出てきた。あれは地元には残ってないかも。
  - ・昔、湯原にあったロープウェイのことや神社のこととか調べるとおもしろいと思う
  - ・パンフレットや写真など散逸してしまう。デジタル化しておけるといい
  - ・庁舎の古い倉庫を整理していたら大正時代の行政文書や戦中の予算書などが出てきた。  
逆に最近の行政文書は保存年限がきたら即処分してしまう、それでいいのかと思っている
- ・湯原図書館は昨年4月に開館して、いきなり緊急事態宣言が出たりして大変だったが、最近の利用状況はどうか
  - ・(ト) 子どもの利用、観光客の利用が戻ってきているが、閲覧室の席数は減らしたままだし、静寂読書室は窓がないので閉鎖のまま。新館になったが全実力が発揮できていない。
  - ・空気清浄機を入れるとか、予約制にしてはどうか
  - ・(湯原館長) そもそも静かに過ごす場所なのでコロナでもリスクは低いと思っているが、この状況で窓のない部屋を開放している、ということが管理上どうなのかと悩む。  
予約制はいいと思う



- ・図書館スペースの外、振興局内の他のスペース（交流スペース）などに本を持ち出して読んではだめか
  - ・（ト）原則貸出処理をして持ち出してもらうのがいい…
  - ・中央館と違ってICタグを貼っていないので、持ち出そうと思えば持ち出せる。自由にしたいところだが、管理する側としては難しいか
  - ・観光客はカードがないから館内で読むしかない
  - ・一日だけ使えるカードを作ってはどうか。泊まっている旅館へ持って行って、その旅館で返せるサービスとか
  - ・利用しやすさ、貸出冊数が増えることをよしとして、多少本がなくなるのは仕方ないと割り切るか。
  - ・「まち並み図書館」を作って、観光客にはそっちを使ってもらってはどうか
- ・廃校になった二川小学校に保管されている漫画10万冊、温泉資料館に入っている古本市場、温泉特別観光大使「砂和（さわ）ちゃん」などとのタイアップしてはどうか
- ・振興局は10時まで、はんだきセンターは19時まで開いている。図書館は17時閉館。冬場はいいが、夏場は観光客もまだ出歩いている時間。

以上

## 第 2 回図書館そだて会議@中央図書館 報告

○日時 2021 年 1 月 16 日午後 2 時～ 4 時

○参加者 市民 9 人、職員 5 人

### 第 1 回図書館そだて会議の内容を受けてディスカッション

- 図書館でやってみたこと
    - ・ネット環境の改善 wi-ifの時間制限撤廃 工事予定
      - ・そもそも、図書館でfree wi-fi を使えることが知られていないので宣伝が必要
    - ・Instagramのアカウントを取って情報発信を始めた、フォローしてください！
    - ・キッズテラスの活用
    - ・昨年度まではイベントに使用。今年度はコロナ禍でイベント自体減らしていた
      - ・昨年11月にフルートのライブとスイーツを楽しむ会を開催。好評だった
    - ・壁面展示
    - ・「サポーターズコーナー」の展示替え
  - やりたいと思っているができていないこと
    - ・中高生の映像資料作成
      - ・館内や図書館の自転車置き場などでTikTok？スマホで何かしている高校生？をよく見かける。  
ああいう気軽な感じで一緒にできたらいいなと思っている
    - ・キッズテラスでゆっくり過ごしてもらいたいが、コロナ禍で椅子を減らしている
    - ・椅子をほかのフロアから持ってきたりすることはできるが、雨にぬれたりするので出し入れが必要
      - ・レジャーシートとかヨガマットとか、持ってきてもらったらいいんじゃないか
      - ・誰かが使ったら「あ、こんなふうに使っていいんだ」と思ってもらえるのでは
      - ・図書館で貸出してもいい
      - ・自分たちで持ってきてもらえばいい。なんでも図書館で用意しなくても
  - フリーディスカッション
- ### 映画の上映
- ・1回目のそだて会議でも話したが、年に数回でいいので映画のレイトショーやりたい
    - ・仕事や家事が終わる頃、20時からゆっくり映画を観ることができたらいい
    - ・何曜日でもいい
    - ・年に数回なら図書館職員の負担も少ないのでは
  - ・月イチ映画会をやっていると、鑑賞した後に上映作品について話し合いたいという声を聞く
    - ・以前は図書館サポーターズで、上映後話をするなどやっていた。次の上映作品を決めたりできた

- ・コロナ禍でなかなか難しいか
- ・せっかく話し合う時間を設定しても、人が来なかったりする
- ・昨年秋のドイツ映画祭の時は人が集まって話ができてよかった。飲食できると人が来る
- ・先日図書館で、鳥取県立図書館のオンライン講座をシアターで見た時にも、参加者で話ができたらよかった
- ・映画や講座を観るだけで終わらないで、おしゃべりしたりする機会があるといい

## コミュニケーション

- ・本を借りたり返したりする時に、「はいどうぞ」くらいで終わってしまうのがさみしい
  - ・司書が忙しいならサポートーズコーナーにサポートーが待機して来館者と気軽に話しをするとか
- ・コロナ禍でビニールシートを貼ったりしていることもあり、カウンターで話しづらい
- ・(ト) カウンターの中にいると話しかけられにくいフロアに出ていると話しかけてもらえる。話しかけてもらいやすい雰囲気をつくりたい
- ・正面玄関ではなく北側の入り口から入ると緊張する。すぐ横にカウンターがあるのに反応がないから？雰囲気が堅い
- ・誰か入ってきたなと思ったら、顔を上げてあいさつするといいのでは
- ・岡山県内の図書館はどこもスタッフはあまり挨拶をしないと思っていた。利用者も静か。地域性？真庭から変えていこう
- ・今回初めてそだて会議に来てみたが、カウンターの人に話しかけてもらったのがきっかけだった

## サポートーズ

- ・サポートーズコーナーのおすすめ本を書くサポートーが減っていて困っている
  - ・あのコーナーのおすすめ本はわりとよく借りていただいている
  - ・おすすめ本のカードは、サポートーでなくても誰が書いてもよいことにしたらどうか？
  - ・おすすめ本を書いてもらうカードにサポートー仲間を募集していることも書いておく
  - ・タウン誌に「サポートーズのおすすめ本」を載せてもらっているので、書き手を増やしたい
  - ・あのコーナーで何をしているのか知らない人が多いと思うので、年に1回とか勧誘する会をしたらどうか。できれば飲食しながらがいい

## 静かさ、音

- ・図書館にはよく来る。複数館を利用しているが、静かすぎるのが苦手なので目当ての本を借りたらさっさと帰っていた
- ・子どもを連れてくるときに、キッズスペースをよく使っている。コロナ禍でキッズスペースの扉が開いたままになってしまったので、子どもの声が外のフロアに聞こえるのではないかと冷や冷やしてしまう
  - ・(ト) 中央図書館お2階は子どもの専用のスペースなので、音にそれほど敏感になっていただかなく

でも大丈夫。スタッフによってどのくらいで注意するかばらけがちだった。開館当初は珍しかったせいか館内を走り回る子どもが多くて厳しめに注意していたようだ。今はそれほどではない。

- ・図書館は公共の場。子どもにとっては公共の場でのマナーを知ることができる場でもある。言うべきことは言った方がいい
- ・保護者が子どもをほったらかしにしていることもある
- ・生活音として許容できる範囲が人によって違う
- ・中央図書館の1階は特に静か

#### 図書館全般など

- ・デジタルサインージで何ができるか知らなかった。フリーwi-fiが使える事も初めて知った
- ・OPACが使いにくい
- ・本の置き場所が分かりにくい。書道の美術書と実用書が別々の場所にあった
  - ・岡山県立図書館でやっているような大人向けのバックヤードツアーをしてはどうか。図書館においている機器の使い方の説明も含めてやってみたら
  - ・コンシェルジュのような人がいたらいい
- ・ふらっと来て読みたい本に出会えるようになった
- ・正面入口から入って、カウンターへ向かうまでのスペースにある展示コーナーなどを見るのが好き
- ・インターネットの情報と本の情報を使い分けている
- ・小中学校でのプログラミング教育など始まっている
  - ・図書館でプログラミング教室をやったりしているところもある
  - ・レゴでロボットをつくらせると、本に興味の無い子が図書館に来るきっかけになるのでは
  - ・図書館が何でもするのは無理だろう。得意な人、できる人に頼んでやってもらうといい
  - ・プログラミングなどだったら県の教育センターがノウハウをもっているかも。いっそ企業とタイアップしてもいいのでは
- ・若い頃からバスケットをやっていて、チーム全体が強くなるには、一人一人が強くないといけなさと教えてきた。図書館の場合はどうか。全体がよくなるには一つずつの図書館がよくなっていくのがいいと捉えたらいいのか。中央図書館と地区図書館それぞれが強みや個性を出していくとか
- ・地域ごとの特色とか特長を何だと考えるかは世代によって違うかもしれない。
  - ・(ト) 長い年月の内に特長がかわっていったとしても、以前の特長が分かる資料も図書館では保存していく。古い特長もあたらしい特長も分かるようにしておくのが図書館の役割
- ・小学校でやっている探究学習で地域のことも勉強している。こういう学習を図書館が支援するようになるといい。
  - ・(ト) 学校図書館がしっかりすれば、学校を卒業して市外へ出て行ってしまっても子育てなどのタイミングで戻ってくるのではないかと。まちおこしにも繋がっていくと思う。

以上